

石クリ通信

11月号

待合室のBGM

院長 石川 悟

ホテルやレストランなどで、邪魔にならない程度のBGMが流れているのは、とても気持ちのいいものです。当院でも2011年の開業以来、待合室でiPODを使ったBGMを流しています。BGMには音の大きさが変化するフルオーケストラの曲やバンドの演奏は不向き、また歌詞の入った音楽曲や歌謡曲もBGMには適さない、と言われていました。

当院では私の趣味で、バロックなどを含む広義のクラシックの室内楽がほとんどです。自分の持っているCDや借りて来たCDをiPODに入れ、作曲者や楽器ごとの「プレイリスト」を作り、だいたい一カ月ごとに曲目を替えています。

iPODも長く使っているのですが、いつか故障するのではないかと心配もあります。バッテリーはすでに老朽化しているもので、フルで電源につないでいます。待合室の響きがいいので、それほど高価なオーディオシステムではないのですが、好評をいただいています。

BGMの音量が大きすぎるとか、別な曲を聞きたいなど希望がありましたら（希望にそえるとは限りませんが）、どうぞ受付までお申し出ください。

猛暑のせい？

看護師 澤田 彰子

私の好きな花、皇帝ダリアがピンチです。いつもならこの時期ガレージの上まで枝を伸ばし蕾も大きくなっているのに、今年はまだ蕾も小さくちゃんと咲いてくれるか心配です。

ハロウィン

看護師 太田 小百合

毎年ハロウィンの時期になると、「今年は何を作ろうかなあ」と悩み、作るのですが、家族（特に夫）の反応はいまひとつ。今年は絶対食べてもらおうと思い、カレールーハロウィンにしてみました。「うわ！何これ！」と驚きの反応も得られ、食べるしかないのです。完食してくれました。大成功です。ちなみに白のは、マッシュポテトで作った人形です。



ドリトル先生

事務長 石川 都

児童文学の古典「ドリトル先生航海記」がこの秋話題である。

これはヒュー・ロフティングの小説で、動物の言葉が話せる博物学者ドリトル先生の奇想天外な旅が、助手のスタビンス少年の目を通して語られる冒険譚である。

そのドリトル先生の熱烈愛読者であった福岡伸一が、井伏鱒二らの名訳をさらに現代風にやさしく改訳し、その全章に原著の挿絵をも載せたのが、今回の新潮文庫版である。

福岡は「小学生の頃にこの本と出会って以来、ずっとスタビンス少年になったかった」。そしてドリトル先生のような博物学者（ナチュラリスト）になろうと決めた「そうだ。

この秋のNHK-100分名著「ドリトル先生航海記」では、福岡が小説舞台の町パドルビーを探しに英国まで行き、記述を頼りに港町プリズトル近くの川岸にたどり着き、挿絵と似た背景の場所、スタビンス君ながら足をぶらぶらしている写真まで並べて載せる凝りようである。

彼によるとドリトル先生の素晴らしさは、動物との会話からわかるように、博物学者としての生きもの全てへの深いまなざしであるが、それに加えスタビンス君との関係も見逃してはならないと言う。孤独で貧しい少年にもフェア（公平）に接するナチュラリストとして、他の生物との食べ食べられる関係をも現実として受け入れる公平さ（フェアネス）も持ち、さらにはその旅を通じて、科学的好奇心と想像力の素晴らしさも彼に伝えてゆく。

そこに登場する知恵のあるオウムのポリネシアや有能な家政婦のアヒルのダブダブ、美しいムラサキゴクラクチョウのミランダなども、実に魅力的に描かれているが、今回の私の発見は、「ドリトル先生」の名前が「do little」（ほとんど何もしていないおさぼり先生）という意味だったこと。

さらに物語ではクモサル島で大活躍し平和をもたらしたドリトル先生に、島の住民が「シンカロット（think a lot）王」（よく考える王様）と名づけたことにも、作者の絶妙な言語センスがわかる。

児童文学の古典は大人になって読み直しても、また新たな面白さが見つかるものである。読書の秋に皆様も、昔読んだ本を読み直してみてもいいかがでしょうか。

枯れてしまいました

事務 森 多加子

家を建てた時に植えたやまぼうしの木。どんどん大きくなって、毎年沢山の白い花を咲かせて沢山の実がなりました。おとなりにご迷惑をかけてしまうほど大きくなり過ぎてしまったので植える場所を変えたら、春になっても新芽が出てこなくなつて。植木屋さんに見てもらったら『あ、枯れてますね』と。新しいシンボルツリー、探し中です。

寄り道

看護助手 柴田 さち子

仕事帰りにお弁当を買って、神峰公園の見晴らし駐車場へ寄り道しました。日立市内が一望できて、心も癒されました。神峰公園は時々寄り道したくなる場所です。



金木屋

事務 吉田 政子

庭の金木屋の花が咲きました。風が吹くと家の中にも、甘い花の香りがふわっと漂ってきます。この香りを嗅ぐと、小学生の頃の思い出が蘇ります。この香りが大好きだった私は、両手に山盛りになる位の量の庭に咲いている金木屋の花をランドセルに詰めさざかしい匂いのランドセルになるかとランドセルに何回も顔を突っ込み、香りを嗅いでるうちに気持ち悪くなってしまいましたという、思い出です。その様子を見ていた母の呆れ顔も思い出します。風に乗って香ってくる程度の香りが一番心地良いのかもしれないね。（笑）

子どもと投票へ

庶務・ウェブ担当 石川 香

先日、衆議院の解散総選挙が行われました。投票率は53.85%で、戦後三番目の低さでした。

今回の衆議院選挙で、私は市役所で仕事をしていたついでに、期日前投票を済ませてしまったのですが、その後次のようなポストターをSNSで見つけました。子どもの頃に親の投票に同行すると、成人になってからの投票参加率が上がると言われており、国も子連れの投票を推進しています。左は伊予市のポスターで可愛らしいですね。私も次回以降は必ず子どもたちと一緒に選挙に行こうと思います。みなさんもぜひ、お子様やお孫さんと一緒に行ってみてください。

